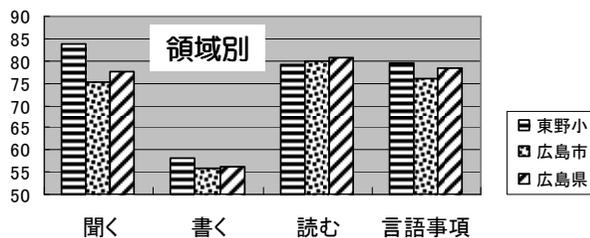
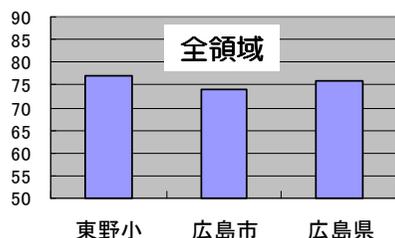


5年生 基礎・基本定着状況調査の結果について

6月12日に5年生を対象に実施された基礎・基本定着状況調査について、遅くなりましたが結果をお知らせします。

今回の調査で、定着が不十分でない学習の領域や生活上の改善点がはっきりしてきました。5年生だけでなく、全学年において、繰り返して学習することや指導法を工夫をするなど、これまで以上に積極的に取り組み、子どもたちの学力の向上に努めて参りたいと考えております。

《国語》

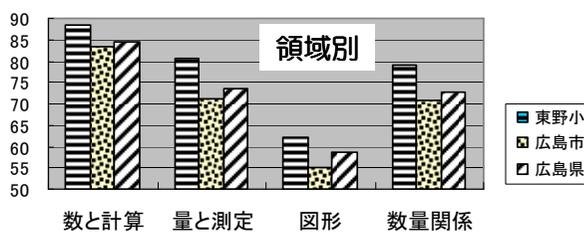
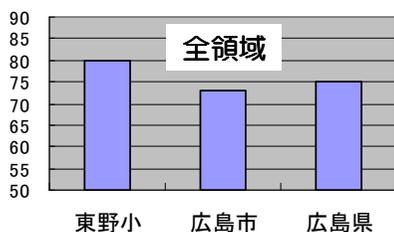


	全領域	聞く	書く	読む	言語事項
東野小	76.9	83.9	58.2	79	79.4
広島市	74.1	75.1	55.9	79.9	75.9
広島県	75.8	77.7	56.4	80.7	78.3

「聞く」領域では、放送を聞いて話の要点をよく聞き取れていました。「書く」領域では、理由を挙げて書くことを苦手としている児童が多くいました。「読む」の領域では、場面の移り変わりや情景を読み取ることを苦手としている児童が多くいました。「言語事項」では、ローマ字は概ね定着している児童が多い反面、中学年での漢字が定着していませんでした。一方、文の構成で、昨年度から学校全体で取り組んできた「主語と述語の関係」が大きく改善されました。

これらの結果を踏まえ今後は、結論を書いた後、理由を叙述するなど文章全体の組み立てを考えながら書くような作文指導や読み取る力の向上を目指した朝読書や読書習慣の定着、漢字の反復練習の充実に力を入れたいと考えています。

《算数》



	全領域	数と計算	量と測定	図形	数量関係
東野小	80.1	88.4	80.4	62.1	79.1
広島市	72.9	83.5	71	55	70.7
広島県	75.0	84.6	73.7	58.7	72.7

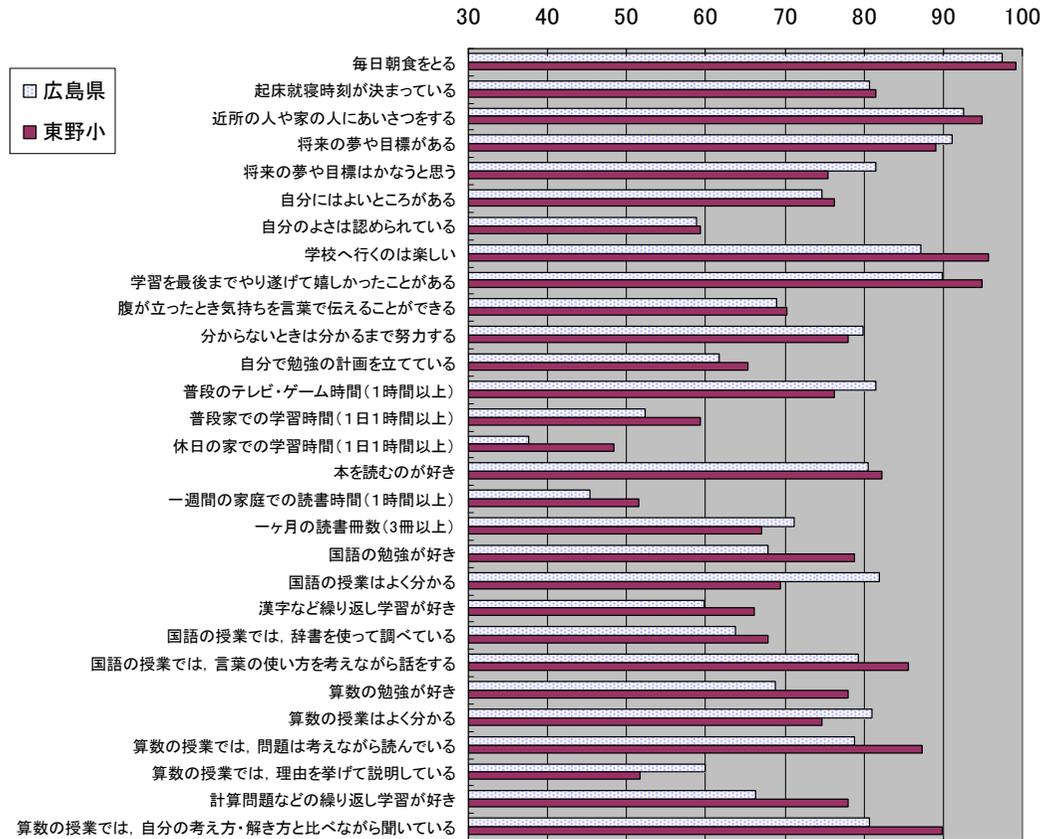
「量と測定」領域では、広さを比べる問題や複合図形の面積を求める問題の式を立てることができていませんでした。しかし、単位を書く問題では、よく定着していました。「図形」の領域では、直角三角形を4つ敷き詰めるとひし形になることを説明する問題が全ての問題の中で一番定着していませんでした。「数量関係」の領域では、四則計算や()を使った計算、グラフの読み取り、伴って変わる量のきまりを見つけたりすることはきちんとできていました。

今後は、問題文を正確に読み取るために、大切な文章に線を引くこと、文の内容を絵や図にかいて立式につなげていくことなどの指導を通して、自分の考えを自分の言葉で説明できるような力もつけていきたいと考えています。

《生活と学習に関する意識・実態調査》

昨年度課題であった「家庭学習の時間が少ないこと」に大きな改善がありました。これからも、家庭での学習習慣の定着に向けて、「①宿題や復習（予習）をする。②分からないことをそのままにしないで、誰かに質問したり、自分で調べたりする。③興味あることなどについて自主学習（発展学習）をする」などの視点でお子様を励ましていただきたいと思います。

起床・就寝時間が決まっておらず、規則正しい生活ができていない児童が20%います。特に睡眠時間をしっかりとることが学校での充実した活動につながります。また、将来の夢や目標がある児童が多い反面、夢や目標がかなう、と思っている児童が平均より少なくなっています。目標に向かっていく前向きな気持ちが、やや少ないようです。夢や目標があるとそこに向かっていく力の源になります。道徳の時間などで将来に希望がもてるような力をつけていきたいと考えています。



6年生 全国学力調査の結果について

5年生と同様に、6年生では4月17日に全国学力調査（国語・算数・理科）が行われています。この結果についてもご報告いたします。

《各教科の平均正答率について》

各教科の正答率は、国語・算数・理科ともに全国、広島県の平均を上回っています。

	国 語		算 数		理 科
	A問題	B問題	A問題	B問題	
全 国	81.6	55.6	73.3	58.9	60.9
広島県	83.6	58.1	75.4	60.5	62.9
東野小	85.0	61.1	77.2	65.5	69.9

《国語 領域別の分析》

領域	国語 A			国語 B		
	全 国	広島県	東野小	全 国	広島県	東野小
話すこと・聞くこと	79.4	81.6	83.7	63.0	65.8	65.6
書くこと	57.5	62.6	58.7	46.8	50.1	48.4
読むこと	82.1	84.0	83.9	55.7	57.5	65.5
言語事項	86.3	87.9	90.6	55.2	60.6	48.0

○A問題では、「話すこと・聞くこと」「言語事項」の正答率が全国・広島県を上回っていますが、領域別の正答率は全国・広島県と同様の傾向を示しています。しかし、より応用的なB問題を見ると特に「言語事項」について正答率が下がっていることが分かります。この問題は、目的や意図に応じ、適切に敬語を使いながら、返事の仕方と内容を記述する問題でした。このことから、本校の子どもたちは、教科書を使って学習する基本的な言語事項は、十分に定着しているが、それらを応用して生活の中で適切に使う経験や力が不足していることを表しています。

《算数 領域別の分析》

領域	算数 A			算数 B		
	全 国	広島県	東野小	全 国	広島県	東野小
数と計算	75.0	76.1	78.7	54.0	55.2	62.8
量と測定	71.7	74.0	76.0	60.8	62.2	67.6
図形	72.6	76.5	76.5	63.3	65.1	69.0
数量関係	74.4	77.9	78.9	49.5	51.9	50.2

○算数では、B問題の「数量関係」を除いてどの領域も全国・広島県の平均と同等か上回っていました。特に「数と計算」「量と測定」の領域では、A問題B問題ともに全国・広島県の平均を大きく上回っており、本校児童の理解と定着がすすんでいることを示しています。B問題の「数量関係」では、判断の根拠を説明するために必要な数値を求め、その理由を言葉や数を使って的確に記述する問題や表から適切な数値を取り出して割合の大小を判断し、その理由を言葉や式を使って記述する問題において正答率が下がっていました。これらの結果から、本校の児童は基本的な力は定着しているものの、それらを実際の生活の中で有用なものとして使っていく経験や力に不足があることが分かります。

《理科 領域別の分析》

○理科では、どの領域においても平均を上回っています。しかし、植物の成長の規則性を他の対象植物にも適応し考察する問題や天気の様子と気温の変化との関係について、データをもとに分析して、その理由を記述する問題などの平均が下回っていました。

領域	全 国	広島県	東野小
物質	61.4	63.0	72.2
エネルギー	59.8	62.5	66.3
生命	68.6	70.3	77.8
地球	50.6	52.5	54.7

これらの課題は、これまで6年間の学習の積み重ねの結果と捉えています。これらの課題を踏まえ、学習の仕上げとして、学習で得た知識や経験を実際の生活の場に生かす活動を取り入れるなど、子どもたち一人一人の主体的な学習と学習内容の確実な理解・定着に向けて取組を進めていきたいと考えています。